

黒石市立小・中学校適正配置第3回検討委員会会議概要

1. 日 時 平成22年8月25日（水）午後1時30分～

2. 場 所 黒石市産業会館 4階 大会議室

3. 案 件

1. 講演1 「学校と地域」における黒石市独自のコミュニティ活動の実施
～1小学校区・1公民館・1コミュニティエリアの取り組み～

講師 黒石市社会教育委員 吉田 安宏 氏

講演2 「黒石市総合計画におけるこれからのまちづくり」

講師 黒石市教育委員会社会教育課長 黒瀧 清隆 氏

2. 質疑応答

4. 会議における主な意見 ※（○印は委員の意見、矢印は講師の回答）

【講演1】

○ 分散型と拠点方式のお話ありましたが、黒石は分散方式、よその所は拠点方式、どちらが優れているかという考え方があると思いますが、歴史的な経緯からいくと、吉田さんの思いは分散方式にあると思いますが、拠点方式にした場合の利点、全国で見たときにほぼ都市型はこうであるとか、うまく分ける方法みたいな、今もって分散方式をやっているのは、日本で黒石だけというのはないんでしょう。そういう意味合いの事、何か情報ありましたら教えていただきたいと思います。

→ 拠点方式は、市町村行政にとってやりやすいんです。1つあって、そこでみんなのための学習でも、1つに集めて1つで勉強すれば、あとは皆さんどう捉えようが自由です。学習するという意味では拠点方式がいいと思います。分散方式の場合、地域との関わり合いはすごく強い。拠点にすると、どっかのモデルになって案外よそ事になりやすい。黒石の場合は、コミュニティ作りを大事にしてきたので分散方式が合っている。これを今、各市町村が黒石方式をとりなさいといったら、お金がない、人がいなくてやれないと思います。その点黒石は、職員にお金をかけたし、施設にもお金をかけてやってきました。それを今、拠点方式をとっていけば、市民一同が集まってやる研修や学習、みんなが地区を越えて市のための話し合いをするためには、1つの市の施設で集中してやるのは大事だと思います。でも、本来のいき方は、学校区毎にやっていけるとすれば、学校の先生にとってみても、地域にとってみても、方法はどこも真似できないと思います。そういう黒石だけの良さは、私は生かしていければと思います。より具体的に市民に浸透するやり方としては、国に対しても絶対だったなという誇りを持てると思います。

○ 学校と地域の連携というのは、大変密接だというお話をされたと思います。適正配置という委員会からいきますと、ひょっとしたら廃校、統廃合になるおそれがあります。もしそうなった時の協議会のあり方といいますか、その辺の所お願いします。

→ 私がいた50年代とか平成に入ってから、統合の話はありました。我々の中では、追子野木小学校と牡丹平小学校と黒石東小学校が1つになって、全部黒石中学校区でいいじゃないかと。1中学校区が1コミュニティエリアというのがあり得るのかということも、考えたり話し合った事がありました。でも、その時に学校の問題は地域の問題ですから、牡丹平地区協議会と追子野木地区協議会と東地区協議会と学校がみんな入って話し合えばいいと思います。学校の先生方とPTAだけが悩むことではなくて、地区協議会に降ろして、そういう場を設けて、それぞれの立場で話し合っとういうふうに1つになるのがいいのか、財政的な問題もあるかも知れません。地区協議会組織が1本になれるのか。それで今みたいな協議会方式を取りながらも、お互いに考えていく。そこは、話し合いをしていく事が必要かと思います。協議会の人たちも、自分たちの身近な問題として学校を捉えてくれるのではないかと思います。協議会があるというのはすごくいいんです。何もなかったら、話し合いの場も設けられないと思います。そういう意味では地区に呼びかけるというのは、地区協議会が動きますから、そういう面がすごくこれから大事だと思います。

【講演2】

○ 学校と地域の連携がすごく大切な事で、もし統廃合になって学校がなくなった時に、懸念される事の1つに学校開放の利用があります。運動会にしろ、軽スポーツにしろ、そういう施設がなくなる可能性があるわけですが、その辺の所はどのようにお考えですか。

→ 学校をその地域に残して、地域の人が使うという基本方針をもっております。

○ 施設としては残すということですね。

→ それは私の考え方です。

○ 大変いい講話をいただいたと思いますが、私が一番気になるのは、地区協議会というのは地区のゆりかごといいですか、地区を守る存在というイメージを強く持っていたのですが、これに対して、主体的に何々しなさいとなると、地区の機関車になるわけですよ。機関車であるならば、そこに石炭なり、何を持って動いていくのかと。どこにでも走っていく協議会の運用の仕方は、私は間違いだと思います。協議会の評価をはかるのであれば、具体的に予算です。そういったものをもっとみんな考えていく事がないと、なんでも地区に降ろしましょうというのは。さっきの講師の話にもありましたが、関係なく協議会でお話ししなさいよというのは、あまりにも乱暴であって、それであるならば地区に降ろすだけで、行政は何をやっているのかと私は聞きたくなります。

○ あくまでも統廃合を前提にして考えているのですが、平賀町が合併して平川市になりましたね。農協も津軽みらい農協になって組織が大きくなった訳ですけども、今までできなかった事ができるようになると思って、期待を込めて合併したらいいんですけども、やっぱり合併してみてどうかというと、実際は大きい方に全てのみ込まれてしまって、小さい所であずましくやっていた事が排除されていく。きまりも大きい方に従わなければいけない。農協も非常に不満が出ているようです。ですから、学校の統合の場合でも、結局

小さければ子供たちが経験できないような事、できなかった事もできるようになるために統合すると、前向きに考えていかなければならないと。統合したことによって、部活動は制限されて、帰りのバスが何時だから終わりとか、マイナスの部分が出てくると思うのです。やはり、子供たちの幸せが道の真ん中だと思うので、地区の問題もいろいろありますが、子供たちの幸せを中心に考えていかなければいけないのではないかなと。したがって統合して1つの学校ができれば、その大きい学校に従って今までのものをのみ込んでいくのではなくて、全く新しい学校ができたんだという発想に立って地域も作っていかなければいけないし、学校経営もしていかなければいけないという事を考えています。

- それとなく黒石の社会教育、生涯学習教育を分かっていたつもりでいましたが、こうやって資料を基にして話した時に、改めて1小学校区1公民館、1コミュニティという考え方が、思いがすごく強かったんだなど。1年や2年、10年や20年単位のものではないんだという社会教育課を中心とした黒石の社会教育、生涯学習がすごいなと思いました。吉田さん、黒瀧さんの話の中にも、できれば学校を潰して欲しくないという思いがあるのではないかと。黒瀧さんの最後の所の、今後も協議会と公民館を軸に「学校・家庭・地域」が一体となりという言葉が載っていて、学校が入っているのだなど、その思いもあるだろうし、でも、私たちの委員会は子供中心に考えなくてはいけないので、子供がこれまで以上に幸せに暮らしていける、学んでいける、遊んでいける、そのためにはどんなことがいいのか、効率だけで考えていいのか、非効率だってあっていいのではないかと、社会教育の話の聞きながら、頭の中ぐるぐる回っています。まとまった話を聞いてよかったと思っています。
- この講演を聞かせていただきまして、その当時の背景とか、いきさつ等、大変勉強になったと感じております。地域と学校とコミュニティの問題についてと、学校の適正配置の検討をするにあたって、いろいろ考えがあるし、様々な問題が出てくるのではないかと感じています。もっと議論しなくてはならないのかなと感じました。
- 社会教育とか、生涯学習とか、学社連携とか、何回も聞いたことがあって、言葉自体考えた事がなかったのですが、歴史ある考え方を今日の講演から学び取って、私も公民館でまちづくり委員長という役職をやらせてもらっていますが、あまり大儀名文を考えないで一生懸命やってきた訳ですが、結果的には、少しは効果が出てきたと自分に自負しています。人を集めるということは、結局は人材を育成する、人物を発掘する、育てていくための公民館、学校を含めて会合があるのかなと私は思っております。今日のお話で、目から鱗が落ちたみたいな、また別な気持ちで公民館のほうですが、がんばって取り組んでいきたいと思っています。
- 今日は、お二方の講演を聞いたわけですが、昭和40年以降の事を主に申しておりましたが、私個人的には、その前の事を聞きたかったわけですよ。佐藤教育長さんがやっていた頃にも、社教係というのがありまして、いろいろな事をやっていて、その頃は実際大変だったと思うんです。40年くらいになると大体軌道に乗ってきているんです。それは全国的な影響もあるかと思えます。協議会が話題になりましたが、私は協議会の会長を務めていて、私はその中でも随分長く、今年で17年もやっていて、今は公民館も委託で、社教課の協力と指導を得ながらやっているのが事実でございますが、我々としても非常に忙

しいです。週に3日くらいは公民館に顔を出しておりますし、この統廃合の問題で、統廃合になっても公民館はそのまま残るという事も、ここには書いていますが、いろいろな問題があると思います。ある所は、統廃合になっても、東と西のほうの意見が一致すればいいわけですが、うちの方はこっちの方が近いというような部落が出ますと、こういう指示通りにはいかない事もあるのではないかな。今日の東奥日報にも、五所川原でしたか、4つの小学校が1つになると。これも今まで二十数回も会合を持っている。合併の問題は容易でないというのは事実であります、これを見逃して通るわけにはいかないというのも社会的な現象でありまして、どうしても我々が取り組まなければならない責任と義務もあります。協議会の事をもう1回申し上げますと、小学校の1学区1協議会というのは、私は青森県でも黒石市しかないのではと思っていますし、全国的にも珍しいのではないかと考えております。今日はどうも参考になりました。

- 協議会の生い立ち、20年30年前の教育委員会の方針など、分からなかった事が、かなり知識として残りました。それで、その延長ですが、学社連携、公民館、唯一地域の企業の会社の社長さんを巻き込みながら、いろんな事に挑戦したり、新しい農家の取り組み方とかも新しい物を立ち上げています。それを1つにまとめながら、地域には地域の子供が一番ふさわしい、他地区にはない育ち方をしていますので、これをできるだけ維持できるような、地域の活動の中から発信して同意をいただきたいという気持ちであります。
- 今日の講演で、今までの1小学校1公民館という、こういう流れが長い間かかってできてきたというのが分かって、これからの適正配置というのを、隣の学校と一緒になればいいという軽い気持ちで思っていたのですが、公民館とかいろいろな問題が出てくるのかなと思って、公民館を何かと利用させてもらっている私たちにしてみれば、1つの行事で婦人会、老人クラブ、全部の人たちに協力いただいて行なっているのが、今度なくなるのかなという思いでしたが、公民館の行事は今まで通りということで安心したんですが、子供たちのほうは、向こうに行って行事を行なう、こっちの町内の行事はこっちで行なうというのがあれば、ちょっと複雑だなと思いました。
- 今日は、なかなか他では聞けないお話を聞かせていただきまして、ありがとうございます。黒石のこのやり方がいいとか悪いとかでなく、行政の方向性だと意志を感じました。ただ、この資料の中でも若干、問題点の指摘もあった訳で、問題点を踏まえながら今後の事を、今後も変わらないと結論づけられましたけれども、最後、行政として何か動く決意がもう少しあってもいいのかと。例えば学校の話で、我々も集まったりしていますが、行政自体も決意を持って何か取り組むというのが正直言って全てのところでない。ただ学校だけという状況でありまして、そうでなくて確かに経緯は尊重すべき事だと思いますが、逆に行政が覚悟を持って動いていくというのが見えれば、もう少し黒石全体いろんな事を考える機会が増えるんじゃないかなと思いました。
- 今日のお話を聞いて、40年近くも黒石市は分散方式をとってきて、ほかに例を見ない地区だということをつくづく感じましたけれども、学校の統廃合をするにあたって、コミュニティエリアと公民館の問題は避けて通れない。統廃合するにあたっては、行政を含めて今後先の見通しを明らかにしていかなければいけないと思っているのですが、それと平行してコミュニティエリアと公民館をいかにしていくかということも、合わせて考えてい

かなくتهはいけない問題なのかなとつくづく思いました。

- この適正配置検討委員会の委員を引き受ける時に、非常に荷が重かったんです。というのは、この4月から来て全く黒石のことがわからずして何を語れるのか、何を思うのかという事が非常に心配でした。そういう点では、社会教育、生涯学習の観点、公民館、学校、コミュニティ、様々な事を知るいい機会で勉強になりました。
- 今までの流れが分かって大変良かったと思います。牡丹平の場合は、統廃合の一番の対象になるのではないかと思っていたのですが、それでも公民館は残るという話でしたので、統廃合と地区の問題は別に考えなければならないのかなと思いました。
- 講話を聞いて、統廃合を念頭に置いて考えた時に、黒石の良さである学校は、先生と生徒だけのものではなくて、地域との関わりだとか、連携という考えを持ってやっていけたらと思っています。まだまだ難しい問題が残っているとは思いますが、黒瀧さんが最後におっしゃられたように、公民館などの建物は、今までの形を保つのであれば安心なのかなと思いました。
- お二人の講師に心から感謝を申し上げたいと思います。黒瀧さんの、4番から最後までのは、我々が会議を進めていく上でもかなり参考になるご意見をいただいたと思っております。吉田さんからは、以前、牡丹平と東と追子野木の合併を考えた事があるというのを聞いてびっくりしたんですが、大変ダイナミックといいですか、発想が豊かといいですか、視点が違うといいですか、昔の人はすごかったと思いました。